



- 2 エッセイ／“おかね”を語る
紙幣の数え方 医学博士 向井万起男

- 4 インタビュー／扉を開く
「江戸しぐさ」から学ぶ上手な生き方
江戸しぐさ語り部 越川禮子



- 9 地域の底力——尾道市
市民の力で「再生」が進む町
「尾道」を訪ねて
広島県尾道市



- 16 対談／守・破・創
宅急便33年の歴史が描き出す世相の変化、価値観の変化
ヤマト運輸株式会社社長 木川 眞
日本銀行政策委員会審議委員 中村清次

- 20 教えて！にちぎん
「タンカン」ってなに？—日銀の調査・研究、統計作成



- 24 貨幣の歴史学
日本の貨幣史の世界史的意義を語る
東京大学東洋文化研究所教授 黒田明伸
東京大学大学院総合文化研究科准教授 桜井英治

- 28 日本銀行のレポートから
「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)—2009年10月—【基本的見解】



- 34 トピックス
35 **AIR MAIL from PARIS**
ユーロ圏における財政政策

表紙のことは



日本銀行新潟支店は、大正三年七月一日、日本銀行一〇番目の支店として開設された。大正に入り、米穀価格の高騰、米の売り惜しみ、金融の逼迫等が悪循環となり米騒動へと波及。米価安定を金融面からサポートするため、米どころ新潟に支店を開設。開設当初、新潟市上大川前通にあったこの旧店舗は、金庫および機関室はレンガ造り、本館は木造塗屋、附属家は木造であり、約四カ月の準備期間で工事に入っている。この駆け足開設ぶりも、米価の変動が激しかった当時の背景を考え合わせると、容易にうなずける。開設後は手形割引を実施し、米穀金融円滑化の道を開く。それまでは地元銀行員が東京まで汽車で片道一九時間かけて現金輸送を行っていたため、同店の開設は地方金融に大きく貢献した。昭和三十年に新潟市大火が発生するも類焼を免れる。その後、昭和三十五年に営業所を現在地（旧県立図書館跡）の新潟市寄居町へ新築移転。昭和三十九年の新潟地震発生の際には、近隣店等の支援および職員の努力で平常どおり営業を継続することができた。